

陸上無線通信委員会 デジタルコードレス電話作業班（第3回）
議事録（案）

1 日時

平成 28 年 9 月 16 日（金） 16:00～17:20

2 場所

中央合同庁舎第 2 号館 総務省 10 階 共用 10 階会議室

3 出席者（敬称略）

主 任：梅比良 正弘

構 成 員：飯沼 敏範、伊藤 泰成、遠藤 和隆、大谷 満、小谷 元史、
金子 雅彦、小林 充生、標 淳也、平良 正憲、武久 吉博、
野島 友幸、平澤 弘樹、森川 和彦、森田 公剛、八木 宏樹

事務局（総務省）：（移動通信課）伊藤課長補佐、和田係長

4 配付資料

資料コード 以作 3-1 デジタルコードレス電話作業班（第 2 回）議事録（案）

資料コード 以作 3-2 第 2 回作業班の資料に関する質問・指摘事項

資料コード 以作 3-3 sXGP 方式の技術的条件案と他システムとの干渉検討

資料コード 以作 3-4 sXGP 移動局と他システムとの干渉検討

資料コード 以作 3-5 sXGP 方式導入時のトラフィック検討

資料コード 以作 3-6 DECT 準拠方式の他の無線システムとの共用検討

5 議事

(1) 前回議事録の確認

事務局より資料コード 以作 3-1 に基づき説明が行われ、（案）のとおり了承された。

(2) sXGP 方式の技術的条件案と他システムとの共用検討

平良構成員より資料コード 以作 3-2 に基づきメール審議における質問事項について回答が行われ、その後資料コード 以作 3-3、3-4 に基づき説明が行われた。

なお、主な質疑は以下の通り。

平澤 構成員： 公衆 PHS を利用している立場からコメントしたい。今回移動局のスプリアスマスクを緩和した提案がされており、計算上も 3% 以下で問題ないとの結果がでていますが、確かにこの 1 方式だけをみれば問題ないかもしれないが、これをきっかけに他の方式もここまで緩和できるのではないかと捉えられると影響が大きいと思われる。今回計算されたモンテカルロ・シミュレーションのパラメータについては後ほど精査し、他方式でも問題が無いか確認させて頂きたい。

平良 構成員： 了。

武久 構成員： 移動局の不要発射を緩和することについて、一番気になるのは公衆 PHS の制御チャンネルへの影響である。制御チャンネルの領域で -36dBm から均一に緩和されているようだが、先ほどの説明ではモンテカルロ・シミュレーションを用いて計算されており、そのような確率的な評価でいいのか疑問である。制御チャンネル

に関しては厳しいと思われる。

梅比良主任 : これは今までどのように検討していたのか。

平澤構成員 : モンテカルロ・シミュレーションで干渉確率3%以下の基準で評価を行っている。

梅比良主任 : それは制御チャネルを含めてということか。

平澤構成員 : 然り。モンテカルロ・シミュレーションの評価の中身について再度こちらで精査させて頂く。

伊藤構成員 : P17 のマスクの表について、基地局側と移動局側の表があるが、移動局の方において規制を緩和しようとしているレベルの帯域の数字が1906.4MHzとそれに対向するところが1892.2MHzとなっているが、基地局側では1906.3MHzと1892.3MHzとなっており移動局側の周波数が広がっているがこれはなにか理由があるのか。

平良構成員 : 移動局の方の実力値を鑑みると極力スプリアスマスクを緩和したいところであるが、一方で公衆 PHS の制御チャネルを保護しなければならず、1906.4MHzのところまで制限をかければ、ギリギリ制御チャネルを保護することができるため、移動局については1906.4MHzとなっている。

伊藤構成員 : 移動局の条件を緩和したいから周波数を広げたいという考えは、干渉を受ける側としては、勝手に広げているだけのように感じる。根拠としてはもう少し明確なものを示していただきたい。

平良構成員 : 検討する。

伊藤構成員 : 誤記の確認だが、P32 において条件2の図で DECT 通話チャンネルとかいてある緑色の矢印がsXGP 基地局からsXGP 移動局へ引かれているがこれは誤記であれば訂正頂きたい。

平良構成員 : 了。

(3) sXGP 方式の自営帯域内における他システムとの共用検討

平良構成員より資料コード 13作 3-5 に基づき説明が行われた。
なお主な質疑は以下の通り。

梅比良主任 : P58 の図について、時間軸は比率だと思えばよろしいか。

平良構成員 : 然り。

梅比良主任 : 例えば Zone3 であれば、トラフィックが同じであればsXGP が 6 割くらいを占めるということか。

大谷構成員 : 然り。

Zone1、Zone5 については PHS が全て使用する。この絵だけ見てもわかりにくいと思うため呼損率の計算が必要と思い今回提示させていただいた。計算が詳細に渡るため、DECT フォーラムと確認したうえで最終的な計算の中身は次

回提示させて頂く。

武久構成員： Zone3 について、sXGP が存在しない場合は PHS が全て占めるということによるしいか。

大谷構成員： 然り。

事務局： P60 において「またはこの条件と等価な方法にて実施する。」の記載について等価な方法とは具体的にどういったものか伺いたい。

また、「300ms 以上の時間を定期的にキャリアセンスして判定する。」の記載について、前回の DECT 等導入時の検討では技術的条件について含めていなかったが、今回技術的条件にした方がいいため記載したのか伺いたい。

大谷構成員： 「等価な方法」については、具体的な方法を想定しているものではない。

定期的なキャリアセンスの条件を記載したのは、この記載がないと一度使い始めたら 2 度と開放しないと捉えられる恐れがあったためであり、技術的条件に含めることは想定していない。

事務局： キャリアセンス時間である「連続する 2 フレーム」の記載について、より良い表現があればご提案頂きたい。

梅比良主任： 確かにフレームという表現はシステムによって異なることもあり、不適切に思う。

武久構成員： 移動局については通話チャネルの検出はしないということによるしいか。

大谷構成員： 然り。一方で、将来的にはキャリアセンスが可能となる端末が出てくることが想定されるため、端末も含めた条件が必要と思われる。

梅比良主任： 「定期的に」とあるが時間は定めないのでか。

大谷構成員： 技術的条件としては定めないことが適当と考えている。実態として、1 時間に 1 回くらいと考えている。

(4) DECT準拠方式の他の無線システムとの共用検討

武久構成員より資料コード以作 3-2 に基づきメール審議における質問事項について回答が行われ、その後資料コード以作 3-6 に基づき説明が行われた。なお、主な質疑等は以下のとおり。

大谷構成員： 前回送信電力についてはチャンネルあたり 10mW にして 1 フレーム 12 スロットから 24 スロットにするという話があったが。

武久構成員： そういった電力標準にしてはどうかという提案があったため、それについては検討したいと思うが、今回の検討については、当初の予定していた出力で検討している。

梅比良主任 : 前はキャリアセンスレベルを変えるという話があったが、今回はキャリアセンスレベルを変えず、電力を変え、使える周波数を増やしたいという趣旨でよろしいか。

武久構成員 : 然り。

大谷構成員 : 電力は F3、F4 だけ変えるということよろしいか。

武久構成員 : 否。F1～F5 すべて変える。必要な電力を先に決定し、その電力で利用可能なキャリアを検討する。

伊藤構成員 : 今回新チャンネルを解放の検討を行うということでこの計算上ではどのチャンネルを使っても同じ条件で使えるということになると思うが、F1～F5 の間に優先順位をつけるという考え方はあるのか。

武久構成員 : 優先順位については既に ARIBSTD で定まっている。F1、F5 をまず優先的に使い、それらが使えないときはその他の周波数を使用するとなっており、今回提案のものもそれに沿うようになる。

伊藤構成員 : メール審議の回答について、明確にご回答頂いてない部分については、次回ご回答いただけるのか。P25 の表現等変わっていないが。

平良構成員 : 次回までに修正する。

(5) その他

事務局より次回の作業班の開催については 10 月 7 日(金)を予定している旨説明があった。

(閉会)